
遊戯王ファイブディーズ・龍可がニートになった異世界

イルフレーム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王ファイブディイーズ・龍可が一ートになつた異世界

【著者名】

イルフレーム

N5230BA

【あらすじ】

ある日突然、龍可が一ートになつた世界に、出向く事になつてしまつた不動遊星。龍可を一ートから救う為には、龍可と結婚して、龍可を主婦にするしかない。果たして、遊星は龍可を妻にすることができるのか？

第一話（1）

晴天換気に恵まれたある日の朝、不動遊星はガレージでひとり、愛車たるロホイールの調整をしていく。

この日は彼以外の同居人たるジャック・アトラス、クロウ・ホーガンの両名は、二人各自に自身の口課である所用を果たしに外出の途にあつた。

遊星が作業を一通り終え、軽い食事に興味を移そうとある時、突然と赤い閃光が彼の目前の視界にへと参上し。

それと連動するかのように衝撃が鬱陶な音と共に彼の身を突き抜けた。

彼は肉体に絡み疲れた衝撃に苛立ちと、不快感を抱いたが、それにもまして、彼を困惑させつる事態が彼の脳内を突き抜け様としていた。

遊星 「な、なんだ？！」

彼は光の中を微妙な変化が低速だが、確実に自分を目指して進んで居るかの様に、見えたことに多少では在るが恐怖的な感覚を呼び覚ましてしまう。

すると、彼の困惑とは違い、その変化は光の中からひとりの青年を姿として、表す。

突然の事に驚きを隠せないで立ち尽くして居る遊星立つたが、何より彼を驚愕させていたのは、現れた少年の姿が彼の良く知る人物で在ったに他ならなかつた。

龍亞 「えっと、すみません、あなたが不動遊星さんですか？」

遊星 「?！」

ん、……あ、ああ……そうだが君は？
(やはり、龍亞と龍可に似ている感じがするが、気のせいなのか?)

「

龍亞 「えっと、初めまして、俺は龍亞って言います。……あつ、最も多分あなたはもう俺とは違つてこの世界の俺を知つてると思いますが」

すけど

龍亞 「ですよね。

(ここに来る前は無口でクールって、聞いてたの。……ちょっとイメージと違ったかな)えっと、まず、俺の名前はさつきも貴方に言つたように龍亞で間違いがないです。

それも、恐らくあなたが知つているこの世界の龍亞と同じ人間です。

……本当に……

遊星 「!?

君はいつたい何を言つているんだ。

確かに、君の姿形は確かに、いや、まず間違いなく俺の知つている龍亞でしかない。

声も少し深みが在るが龍亞と全く違ひのない、瓜二つとしか思えない。

だとすれば……君は本当に龍亞……

龍亞 「どうやら、そうみたいらしいですね。

ただし、多分この世界とは違う分岐点を辿つた別次元の世界。つまり、平行世界の未来から来たんですけどね

「

遊星 「……つまり君は、……パラレルワールド。

……平行した世界で、しかも今のこの世界の時代から更に上の時代から来た龍亞と言訳だな?」

龍亞 「はい、そう……なります、ね。
(髪型が少し変わってるけど、この人、聞いてた通り、頭は凄く良
さそうな人だな。)

感心感心、予想以上に上手く役だってくれそうだ」

遊星 「なるほど、良くわかった」

龍亞 「（それにしても、この人、顔つきは少し恐いけど、何処と
無く優しい感じが伝わってくるイメージだ。）

それにはいきなりこんな風に現れた俺の今の話をたったあれだけの短
い文、それもお世辞にも間ともな人間の実話とは程遠い、はつきり
言つて頭のおかしい馬鹿な奴の下手な五流空想話を素直に聞いて、
紛いなりにも納得と理解ができる辺り、相当な変わり者の変人な人
だとは分かる。

まあ、頭は凄く良いみたいだし。

……ちよつと髪型は変わってるけど……（）

遊星 「それで、君はいったい俺にどんな要が有って、此処にやつ
てきたんだ？」

龍亞 「（まあ、そういうありますよね、ふつうは）

それは、……多分こひら側の世界の俺にも双子の妹としての龍可が
恐らく、居ると思いますけど。

同然俺の方の世界にも妹が、あ、名前はこひらでも変わらず龍可で
会いつてますけど、こひらは面るんですか？」

遊星 「ああ、面る。

それは間違いない。

で、こひら側の龍可が君の此処への訪問に、何か関係しているのか

？」

龍亞 「いえ、実はこひら側の龍可は全く、関係はないんですけど。
不動さん、その……この世界では一ートって、ビリーフ意味で使わ
れてる言葉なんですか」

遊星 「一ートッ？」

龍亞 「ああ、それなら多分だが、そひら側の世界と同じ筈だ。
仕事で働かない若者が親の財産で食い繋ぐ。
そういう意味だが、それがどうかしたのか？」

龍亞 「いえ、まあ、何でもないです。

（やつぱ、ですよね……）

実は……その……言い難いことなんですが、こひら側の龍可がち

よつと……と言つかかなり困つた事になつて居まして。

もう俺一人じゃどうしようか困り果てて居てまして、それで不動さん。

あなたには大変¹迷惑なで鬱陶な事はわかつて居ますけど。
ようしければ、助けて頂きたくてこの世界まで来ちゃつた訳なんです。

どうかお願ひします、不動さん！

どうか龍可と俺を助けてください。
駄目でしょうか……」

遊星 「それは別に構わない、ただ。

どうして俺なんだ？

そして、君はそもそもいつたいどうやつてこの世界に來ることが出来たんだ？」

龍亞 「（別に構わないんだッ！）

それは、……俺の側の世界に居るある人に俺たちの側とは違つ分歧を歩んだこの世界の存在と、その世界で俺たちの未来の分岐点に大きく関わつた、……不動さんあなたの事を聞いて、その人にこちら側への移動の手段の手順を用意して貰つて、俺、すがる想いで不動さん……あなたの所に、此処に來たんです。

どうかお願ひしますッ！

ご迷惑なのは十分わかっています。

でも、俺もう……不動さん、あなたしか頼れる人が居なくて……この通りです。俺にできる事なら何でもして恩返ししますから、どうか龍可を助けてくださいッ！

お願ひしますッ！

遊星 「頭を上げてくれ。

龍亞、俺と龍亞・龍可は絆で結ばれたかけがえのない仲間だ。

それが例え、歩むべき未来の形が違つたとしても、何も変わりはない。

……だから龍亞、お前も龍可も（龍亞側の）かげがえのない絆で繋がっている俺の仲間だ。

その仲間が俺の力を必要として居るのなら、俺はどんな事をしてもお前達の助けになる。

だから、頭を上げてくれ、龍亞」

龍亞 「不動さん（やつぱり相当な変人だな、この人……）」

遊星 「ただの遊星でいい。俺もお前のことはいつも（遊星側の）と同じ龍亞と呼ばせて貰う。

だから、お前も敬語はよしてくれ」

龍亞 「はい、いや……、うん。
よろしく遊星」

遊星 「ああ、しかしよろしく頼む。

それじゃ龍亞、まずはジャックとクロウにも事情を説明して、協力を得よ！」

龍亞 「いや、遊星それはできないんだ」

遊星 「……龍亞それはどうもいじつなんだ？」

龍亞 「本当は俺が今この世界に居る」と血体がとても危険な事なんだけど。

ひとつ的世界に別の時間軸の人間同士が存在すると、その人間同士は互いに存在と共に痕跡もすべて消されてしまうんだ。

でも、今の俺は此処に来るのに使ったこの光の幕のお陰で、少しの間ならこの世界の人に関わらなければ、この世界に留まって、居られる。

だから、こっちの俺や龍可もジャックさんやクロウさんも俺の側には来れないんだ」

遊星 「なに、それじゃ俺も……」

龍亞 「いや、実は遊星、君は俺たちの世界には存在して居ないんだ」

遊星 「俺が……存在して居ない…………」

龍亞 「うん、多分分歧点が違うから、遊星はこの世界にしか居ないんだと思う。だから、俺が遊星と接触しても、大丈夫な筈だと思ふ」

遊星 「成る程、だから龍亞は、俺が一人の今を選んで此処に来たんだな」

龍亞 「うん、その通りだよ（やつぱつ遊星は頭だけはいいみたいだな）」

遊星 「わかった、それじゃ誰も此処に現れる前に急いでそちら側に行こう。

それで龍亞、いつたいどうせそちら側にいくんだ」

龍亞 「それは
……」

次回に続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5230ba/>

遊戯王ファイブディーズ・龍可がニートになった異世界

2012年1月14日15時53分発行